

研究ノート | Research Notes

「教職概論」における受講生の
『目指す教師像』及び『教職観』の変容

——Google Classroomの活用による
効果的なオンライン授業の在り方——

Changes in Students' "Aiming Teacher Image" and
"Views of Teaching Professions" in
"Introduction to Teaching Professions":
Effective Online Teaching by Utilizing Google Classroom

大野 好司

ONO, Koji

尚美学園大学スポーツマネジメント学部
Shobi University

2021年12月

December 2021

研究ノート

「教職概論」における 受講生の『目指す教師像』 及び『教職観』の変容

——Google Classroomの活用による
効果的なオンライン授業の在り方——

大野 好司

Changes in Students' "Aiming Teacher Image" and "Views of Teaching Professions" in "Introduction to Teaching Professions; Effective Online Teaching by Utilizing Google Classroom

ONO, Koji

Abstract

This research aims to deepen the "Aiming Teacher image" and "View of teaching professions" of the student in "Introduction to teaching profession". The introduction to teaching professions, which provides a complete picture of teaching duties, has become an online class using Google Classroom due to the coronal ravages. In the online class, 90 participants were evaluated from the person in charge of 100 to 400 characters using the comment column of Google Classroom every hour to ensure the interactivity of learning. As a result, from the survey results in advance and after the fact and the "Alternative Report on On-Site Examinations at the end of the semester", it was confirmed that the "Aiming Teacher image" and "Views of Teaching Professions" in the first year of the training stage were deepened, and the change of awareness toward "leaders" and the fostering of an independent sense of par-

ties. In addition, I was able to grasp the motivation for applying for the faculty's teacher training course. In addition, it was possible to confirm the necessity of improving the writing expression ability as a problem. In the future, based on the results of this practical research, we will work on systematic and detailed teacher training courses.

概要

本研究は、「教職概論」における受講生の『目指す教師像』及び『教職観』の深化を図ろうとするものである。教員としての職務の全体像を学ぶ「教職概論」は、コロナ禍により、Google Classroomを用いたオンライン授業となった。オンライン授業では、受講者90名に対し、毎時間グーグルクラスルームのコメント欄を活用し、担当者から100～400字の講評を行い、学びの双方向性を担保した。この結果、事前・事後のアンケート調査結果及び「学期末考査代替レポート」から、養成段階1年次における『目指す教師像』及び『教職観』の深化として、「指導者」への意識転換、主体的な当事者意識の醸成を確認することができた。また、本学部教職課程履修者の意欲的な志望動機も具体的に把握することができた。さらに、課題としては文章表現力向上の必要性も確認した。今後、この実践研究の結果を踏まえながら、系統的にきめ細やかな教職課程の指導に取り組む所存である。

キーワード

教職課程 (Teaching courses)／導入期 (Introduction period)
 目指す教師像 (Aiming Teacher image)／教職観 (Views of Teaching Professions)
 指導者 (Leaders)／変容 (Changes)

1. はじめに

1.1 研究の契機

令和2（2020）年4月、本学スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科が新たに開設された。本学科は、多様性あふれる学びでスポーツの新しい価値を創造すべく、運動能力の向上やスポーツの効果的な指導法、健康増進を支える「競技スポーツ」「ウェルネス（健康）」「教育」について学べることを特色としている。「教育」についての教職課程は、1年次秋学期から履修するものとしている。春学期の「基礎演習」（専門科目・ゼミナール）という大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を修得する科目のヒアリングからも、多数の履修希望者が出るものと予想された。そのため、新学部における教職課程の初年次に当たり、履修者の実態を把握しながら、きめ細やかに対応する必要があると考えた。

1.2 仮説の設定

履修者の実態を把握しながら、きめ細やかに対応し、教職への意欲を高めることにより、『目指す教師像』及び『教職観』の形成期に当たり、効果的な指導が実現するであろう。

1.3 研究の目的

「教職概論」の目標は、履修者の『目指す教師像』及び『教職観』をより具体的かつ実践的なものとして考えさせること、計画的に教職科目を履修し、専門科目についてもより意欲的に学び、専門性を高める契機とさせることである。本研究の目的は、当初、この目標達成のために有効な課題設定やグループ協議の在り方を研究し、教職課程履修者の実践的指導力を高めさせることとして計画した。しかし、今年度、新型コロナウイルス感染症予防対策として、「教職概論」はオンライン授業（オンデマンド型）により実施することとなった。そのため、授業方法は、予定した講義及び対面でのグループ協議から、Google Classroomでの講義資料・説明動画配信・演

習課題によるものへと変更した。このことにより、当初の目標を維持しつつ、教職に関する基礎・基本を把握し、教職への意欲を高めさせ、具体的に『目指す教師像』及び『教職観』についての考えを深めさせる契機とすべく、Google Classroomの特性を生かすように取り組むこととした。

2. 先行研究・報告書等

本研究に取り組むに当たり、教職課程入門期の指導の在り方についての先行研究を確認することとした。特に、オンライン授業による試みとして、各單元におけるトピックの設定や意識調査における質問項目等について、以下の3点の文献を参考とした。

2.1 中西 仁 (2015) 「教職概論」における教職課程入門の試み—学校・教職の現状を語ることを通して— 同志社大学教職課程年報 第4号

中西は、立命館大学での「教職概論」の指導を踏まえ、その展開と履修者の変容を調査・研究した結果をまとめている。中西は、「教職概論」の講義において、教職課程導入期の学生に対し、「教職への理解」を進めるに当たり、「現場教師の視点からとらえ直すことによってなされるものと考え」、学校の現状に即したトピックを取り入れた。中西は、これらのトピックを『教員を取り巻く社会的状況』、『教職の制度的側面』、『現代日本の教員に要請される職能』の3グループに分類している。これらは、「教職課程導入期の受講生が学ぶべき基本的内容であり、かつ受講生に省察を迫れるインパクトがあると考えたものを選択した。」としている。中西は、この11項目に基づき、28名の受講者に対し、「教職の授業の内容で、印象に残っているものを2つ程度選び、簡単に理由を述べてください。」と尋ねた結果が次の表1である。

表1 教員志望層学生が「印象に残った」と答えたトピック一覧

No	グループ	項目	回答数
1		3つの教職論（聖職論・労働者論・専門職論）	0
2	教員を取り巻く社会的状況	教職をめぐるストレス・多忙化	17
3		子どもの格差・貧困	11
4		学力問題	5
5	教職の制度的側面	人事（特に採用）	3
6		服務義務・分限・懲戒	3
7		研修・教員評価	3
8	現代日本の教員に要請される職能	授業づくり	7
9		学級経営	2
10		特別支援教育	2
11		進路指導・キャリア教育	2

本研究においても、この「印象に残った」トピック11項目を参考としながら、本学90名の受講者に対し、アンケート調査を実施することとした。

2.2 酒井 朗, 上山 敏, 永田 晴子, 長谷川 秀一, 米山 泰夫, 伊藤 茂樹, 保坂 亨 (2013) 「教職課程履修者の教職に対する意識と学習への取り組みに関する研究」 人間生活文化研究 23号

この研究は、首都圏にある4つの大学の主に中高の教職課程を履修する学生約800人（1～4年生）を対象に、2012年10～11月、質問紙調査により実施されたものである。教職に対する意識と学習への取組に関する質問紙調査を実施している。調査では、教職への動機づけの高さ、学習に対する取組、教員に期待される資質や能力の修得の度合いの3項目について確認している。その結果、回答した7割の学生は教職に就くことを志望しており、3割は高校生の頃に教職を志望するようになったと回答した。また、大半の学生は専門科目の授業も教職科目の授業も熱心に取り組んでいる。しかし、自ら情報を得たり教育関連の本を読んだりすることは少ない傾向にあることが確認された。さらに、学生たちは、同僚教員からの意見やアドバイスに耳を傾ける姿勢や担当教科の内容の修得度などについて、自身の力量を高く評価していることも分かった。質問形式は各項目に対し、「とてもそう思う、少しそう思う、あまりそう思わない、全くそう思わない」の四択である。4大学全体の傾向を把握するために、資料に基づき、筆者が集約・作成したものが表2である。

今回、本講座の事前アンケート作成に際しては、この質問項目を参考にしながら、履修者各自の主体性を促し、アンケート自体を簡潔なものとするべく、複数回答可による選択式で問うこととした。

表2 調査結果の概要（単位％）

No	項 目	とてもそう思う・当てはまる	少しそう思う・当てはまる	あまりそう思わない・当てはまらない	全くそう思わない・当てはまらない	N.A.
1	卒業後の教職志望	30.1	37.9	24.3	5.4	2.4
2	教職をめざした時期	小9.7	中16.1	高31.1	大24.8	無17.1
3	教師を志望した理由（履修免許教科が好きだった）	36.4	35.6	15.6	5.9	6.5
4	〃（理想となる先生にめぐりあえた）	34.9	36.1	16.5	5.7	6.8
5	〃（人と関わる仕事に就きたいと思った）	32.7	37.7	19.3	3.9	6.5
6	〃（子供・生徒が好き）	30.1	41.0	18.2	3.7	6.9
7	〃（仕事として安定していると思った）	22.2	40.3	21.1	9.9	6.5
8	〃（履修免許科目が得意だった）	25.0	38.1	23.5	6.8	6.6
9	〃（親や親戚に学校の教員がいる）	12.8	13.0	15.0	52.3	6.9
10	〃（自分が受けた教育とは違う教育をしたい）	7.4	20.4	43.8	21.1	7.3
11	〃（いじめや問題を抱えた生徒を支えたい）	14.8	32.9	34.6	10.5	7.3
12	〃（給与がよいと思った）	9.1	27.5	42.0	14.8	6.6
13	学生の学習に対する取組（教職科目の授業を熱心に受けている）	26.5	51.5	19.3	2.0	0.6
14	〃（専門科目の授業を熱心に受けている）	38.0	48.8	11.4	1.0	0.8

2.3 小湊真衣 (2014) 教職課程履修学生の科目選択動機とニーズに関する一考察 法政大学教職課程年報 12号

この研究は、法政大学にて教職課程科目「教育心理学」を履修している学生を対象にアンケート調査を実施した結果を分析している。質問内容は、学生の教職課程科目に対する履修動機とニーズについて選択式で回答を求めている。また、時間割作成のポイント、教職課程の授業に期待

することを5件法で尋ね、複数回答可としている。結果は以下の表3～5のとおりである。

表3 教職課程を履修する前の気持ちとして一番近いのは

No	質問項目	(%)
1	教職をとるのに必要なので、特に何も考えずに履修した	73
2	教職をとるかどうかわからないが、内容に興味があったので履修した	20
3	教職をとるのに必要なので、嫌々履修した	4
4	その他	3

表4 同じ科目が違う曜日の違う時限で開講されている場合、重視するのはどの様なポイントか

No	質問項目	(%)
1	他の授業と、時間や曜日がかぶっていないこと	65
2	シラバスの内容	17
3	単位の取り易さ	11
4	友人と一緒に履修できるかどうか	5
5	その他	2

表5 教職課程の授業に期待することは、どのようなことか

No	質問項目	(%)
1	教職に関する基本的知識を身につけたい	69
2	教育の現場で働く人達の声を聴いてみたい	22
3	今の時代の学校教育に関する最新の情報を手に入れたい	20
4	単位取得以外は特に何も期待していない。	10
5	その他	4

*対象91名、回答49名、回収率53.8%。

この調査結果から、次の3点が確認されている。

まず、教職課程科目を履修する際の意識は、「教職をとるため」という動機に基づき、受け入れるべきハードルの一つとして科目履修をしている。

次に、科目選択に影響を与える要因については、教職科目の性質上、選択の自由自体が存在していない可能性が示唆されている。卒業単位数に算入されない性質上、やむを得ない結果でもある。

また、教職課程の授業に対する期待としては、基本的知識が最も多い。1割ほどモチベーションの低い「何も期待しない」という学生に対し、動機づけを図ることが課題であるとしている。

さらに、感想としての良かった点・悪かった点の記述回答からは、良かった点として、教職に対するイメージが固まったという意見が多く寄せられていた。悪かった点としては、単位修得外の負担感が履修動機を低減させる要因であることなどが確認されている。

本研究の調査項目としては、直接活用するところではないが、履修者の意識の一端として、教職に対するイメージを固めさせること、教職への意欲を高めさせ、負担感を軽減することなどを指導上の参考としたい。

3. アンケート調査

3つの先行研究を参考としながら、事前・事後アンケートを実施した。

3.1 事前・事後アンケート質問事項

事前・事後アンケートの質問事項は、次のとおりである。

令和2年度秋学期「教育概論」(スポーツマネジメント学部対象) 事前アンケート

「教職概論」の開講に当たり、受講者のニーズアセスメントとして、事前アンケートを実施します。受講者の現時点での考えや希望を率直に答えてください。回答が成績に影響することはありません。

1 あなたが教員を志した理由(動機・きっかけ)は何ですか。複数選択可能。

- ①教科が好きだから ②理想とする先生の影響 ③身近な人に先生がいる影響 ④保護者の勧め ⑤お世話になった先生の勧め ⑥人の成長に関わる仕事がしたいから ⑦子供が好きだから ⑧人に教えることが好きだから ⑨自分が受けられなかった指導をしたいから ⑩教職資格の取得のため ⑪安定している(身分保障・収入)から ⑫その他:

2 あなたが教員を志した時期はいつですか。1つ選びなさい。

- ①小学校以前 ②小学校 ③中学校 ④高等学校 ⑤大学入学後 ⑥その他

3 あなたが教員になりたいと思う気持ちは次のどれですか。1つ選びなさい。

- ①とてもそう思う ②少しそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない ⑤その他

4 あなたは教員採用試験を受験する予定ですか。1つ選びなさい。

- ①受験する予定 ②受験しない予定 ③わからない ④その他

5 あなたは教職資格取得に向けて、どのようなことに取り組んでいますか。または、取り組もうと思いますか。複数選択可能。

- ①試験案内の取り寄せ(HP等の閲覧) ②過去問題集の購入・演習 ③小学校等でのボランティア活動、塾・家庭教師等での指導経験の蓄積 ④教職科目・専門科目の授業の積極的な受講 ⑤新聞閲読、TVやネットのニュース視聴 ⑥教育に関する本・雑誌の購読、図書館等での閲読 ⑦履修免許教科の自主的な学習 ⑧教職についての友人との対話 ⑨その他

6 あなたがこの授業に期待することは何ですか。複数選択可能。

- ①教職の概要を把握すること ②教員採用試験への対応を知ること ③教員としての心構えを身につけること ④教員への適性を理解すること ⑤志を同じくする仲間を得ること ⑥資格取得としての単位を取得すること ⑦その他

令和2年度秋学期「教育概論」（スポーツマネジメント学部対象）事後アンケート

「教職概論」の最終回終了時に当たり、事後アンケートを実施し、受講者の変化を確認します。15回の受講を終え、自身の取組を振り返り、現時点での考えや感想等を率直に答えてください。回答が成績に影響することはありません。なお、集計結果は、追ってGoogle classroomを通じてお伝えします。

1-1 「教職概論」の履修をとおして、あなたの教員を志した理由（動機・きっかけ・プロセス）に変化はありましたか。一つ選びなさい。

- ①あった ②なかった

1-2 あなたが教員を志した理由（動機・きっかけ・プロセス）は何ですか。複数選択可能。

- ①教科が好きだから ②理想とする先生の影響 ③身近な人に先生がいる影響 ④保護者の勧め ⑤お世話になった先生の勧め ⑥人の成長に関わる仕事がしたいから ⑦子供が好きだから ⑧人に教えることが好きだから ⑨自分が受けられなかった指導をしたいから ⑩教職資格の取得のため ⑪安定している（身分保障・収入）から ⑫その他

2 あなたが教員を志した時期はいつですか。一つ選びなさい。

- ①小学校以前 ②小学校 ③中学校 ④高等学校 ⑤大学入学後 ⑥本講座受講後 ⑦その他

3-1 「教職概論」の履修をとおして、あなたが教員になりたいと思う気持ちに変化はありましたか。一つ選びなさい。

- ①あった ②なかった

3-2 あなたが教員になりたいと思う気持ちは次のどれですか。一つ選びなさい。

- ①とてもそう思う ②少しそう思う ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない ⑤その他

4 あなたは教員採用試験を受験する予定ですか。一つ選びなさい。

- ①受験する予定 ②受験しない予定 ③わからない ④その他

5 あなたは教職資格取得に向けて、どのようなことに取り組んでいますか。または、取り組もうと思っていますか。複数選択可能。

- ①試験案内の取り寄せ（HP等の閲覧） ②過去問題集の購入・演習 ③小学校等でのボランティア活動、塾・家庭教師等での指導経験の蓄積 ④教職科目・専門科目の授業の積極的な受講 ⑤新聞閲読、TVやネットのニュース視聴 ⑥教育に関する本・雑誌の購読、図書館等での閲読 ⑦履修免許教科の自主的な学習 ⑧教職についての友人との対話 ⑨その他

6-1 あなたがこの授業に期待することの中で、一番期待の大きかったものは何ですか。一つ選びなさい。

- ①教職の概要を把握すること ②教員採用試験への対応を知ること ③教員としての心構えを身につけること ④教員への適性を理解すること ⑤志を同じくする仲間を得ること ⑥資格取得としての単位を取得すること ⑦その他

6-2 あなたがこの授業に期待することの中で、一番期待の大きかったものへの取組の達成度とあなた自身の取組について、4段階で自己評価をなさい。一つ選びなさい。

- ①とてもよくできた ②よくできた ③あまりよくできなかった ④できなかった

7 【自由記述欄】本アンケート調査回答の補足や次年度以降の教職課程の履修について、抱負・目標・意見・要望・質問等がありましたら、記入しなさい。

3.2 事前・事後アンケート調査結果

3.2.1 教員を志した理由（動機・きっかけ・プロセス）の変化

図1事後アンケート1-1の結果によると、約8割の履修者が教員の「志望理由の変化」を生じていると回答している（回答90名、回答率100%）。図2・3事前・事後アンケートの結果を比較してみると、あまり大きな変化はないように見える。これは履修者がそもそも抱えている「志望動機・きっかけ」自体は堅持しているためであろう。では、「変化があった」と回答した背景には、どのような質的な変化が生じているのであろうか。

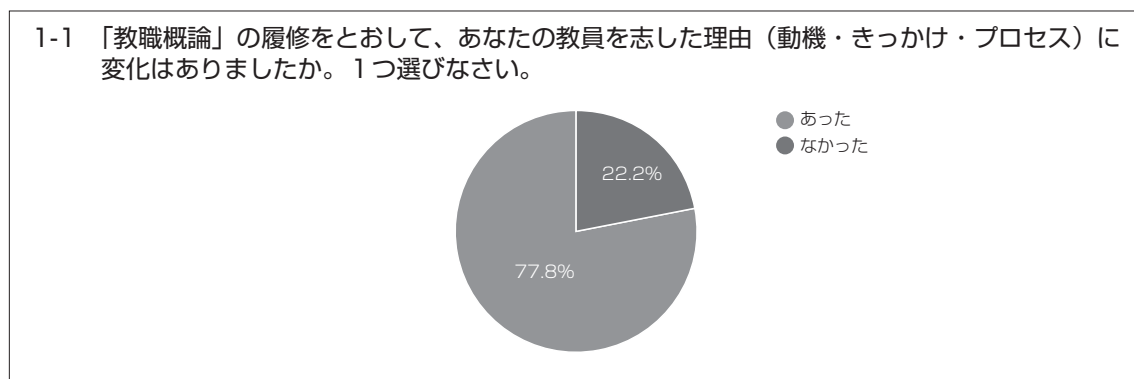


図1 【事後アンケート】 1-1

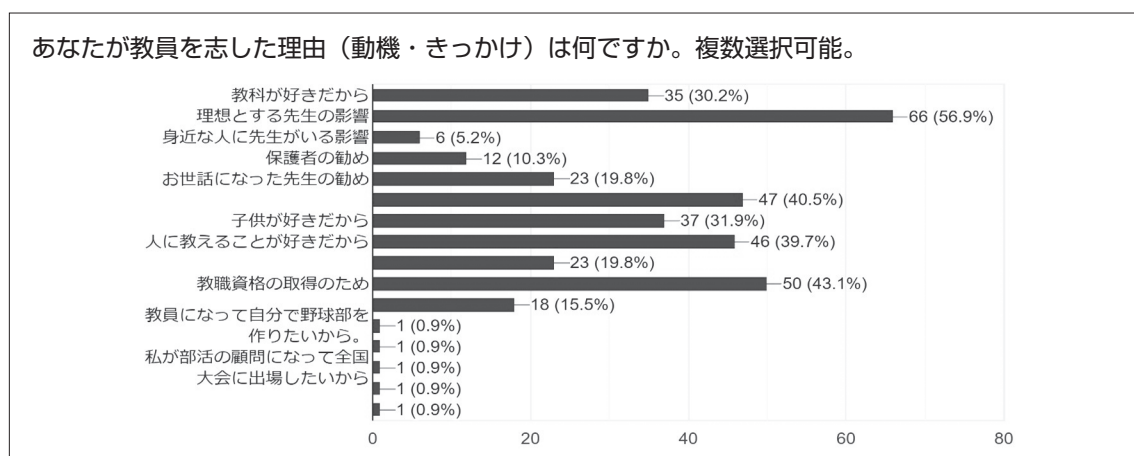


図2 【事前アンケート】 1

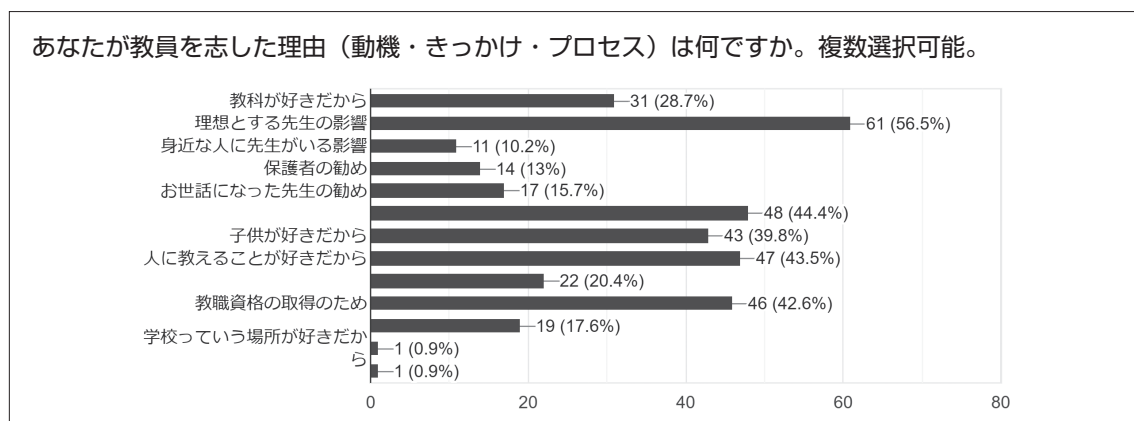


図3 【事後アンケート】 1-2

3.2.2 志望時期

では、図4・5「志望時期」について確認したい。これも、事前・事後アンケートの比較からは大きな変化は見て取ることはできなかった。しかし、細かく見ると、「本講座受講後」・「まだ志していない」という回答が微増しており、これは受講による変化である。基本的には、約3割の履修者が中学校時代に、半数の履修者が高等学校時代に、教員を志している。これは各校種の恩師の影響によるものである。

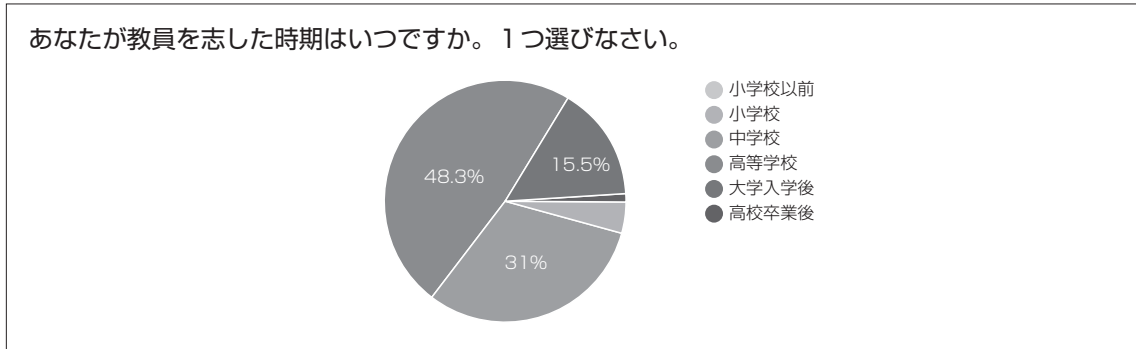


図4 【事前アンケート】2

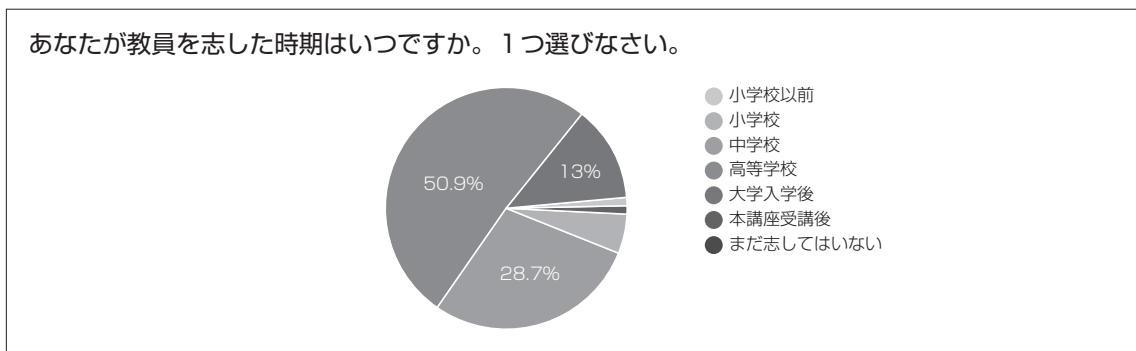


図5 【事後アンケート】2

3.3 教員になりたいと思う気持ち

続いて、図6「教員になりたいと思う気持ち」について、確認したい。本講座の「テーマ及び到達目標」の一つに、「② 他の職業との比較などの機会をとおして、自らの教職への意欲、適性等を熟考し、最終的な進路選択に生かすことができる。」ことがある。大学での学修は、各自の人生におけるキャリア設計の最終段階として、進路選択を実現させるための手段でもある。事前アンケートでは、95%超の履修者が「とてもそう思う」「少しそう思う」と回答していた。

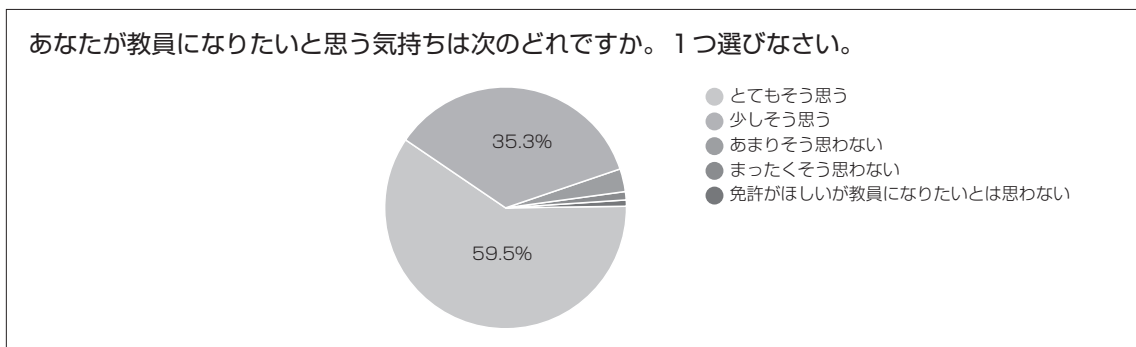


図6 【事前アンケート】3

図7事後アンケート3-1で、この気持ちの変化を問うと、約7割の履修者が「変化があった」と回答している。ただし、図8事後アンケート3-2では、87%の履修者が「とてもそう思う」「少しそう思う」と回答していることから、他の職業について再考する者は1割に満たないが、若干出てきていることが確認できる。逆を言えば、このことは学習の成果として、履修者がより一層「教員になりたいと思う気持ち」を強め、固める方向へ変化したということと解釈できる。

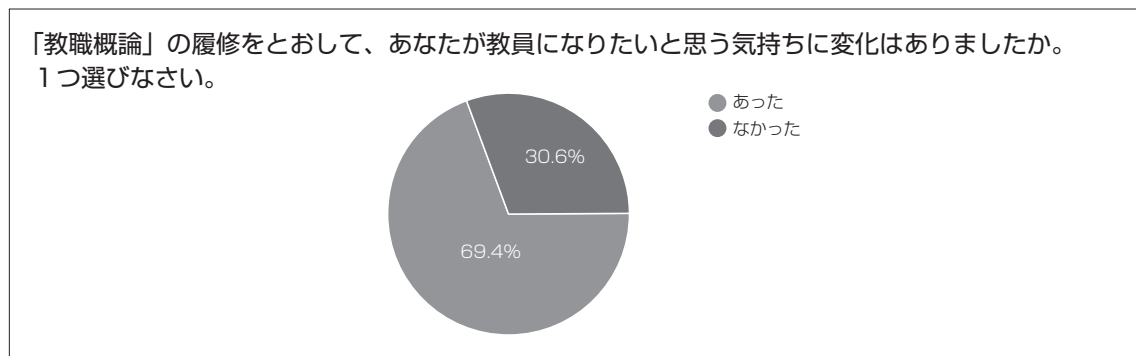


図7 【事後アンケート】 3-1

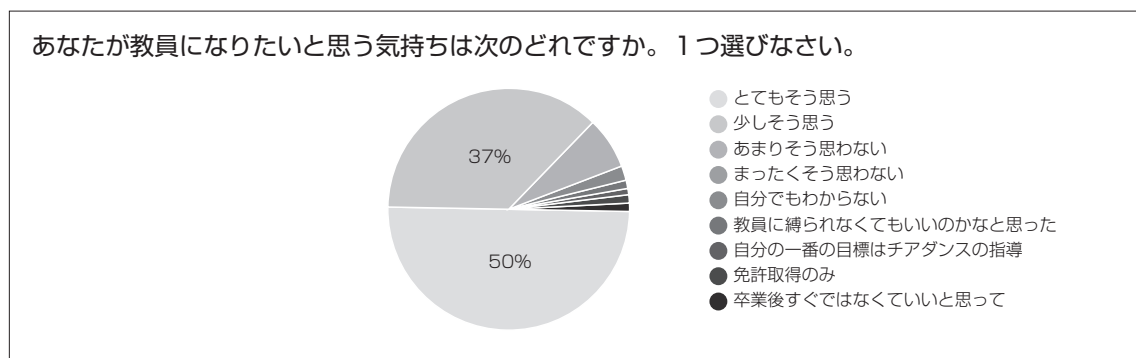


図8 【事後アンケート】 3-2

3.4 教員採用試験受験予定

具体的な「教員採用試験受験予定」についても、図9・10事前・事後アンケートの結果からは、大きな変化は見られない（図10は省略する）。6割の履修者は、教員採用試験へ挑戦する決意を固めている。スポーツマネジメント学部の履修者の中には、強化指定サークルに所属し、プロ選手を目指している者も少なからず存在する。その様な履修者にとっての教職課程は、セカンドキャリアとしての資格取得である。そのため、第一志望のプロ選手を踏まえ、教員採用試験の受験予定なしという回答であると考えられる。この様な受講者に対しても、明確な『教職観』を形成させることは必要である。また、学期末考査代替レポートの記述内容の深化からも、6割の履修者は、本講座の学修を通して、その『教職観』が受講前の「憧れ」から、現実を踏まえた具体的な「目標」へ転換しているものと考えられる。数字の変化はわずかであるが、『決意』や『覚悟』という意識の質的な変化は大きなものがある。

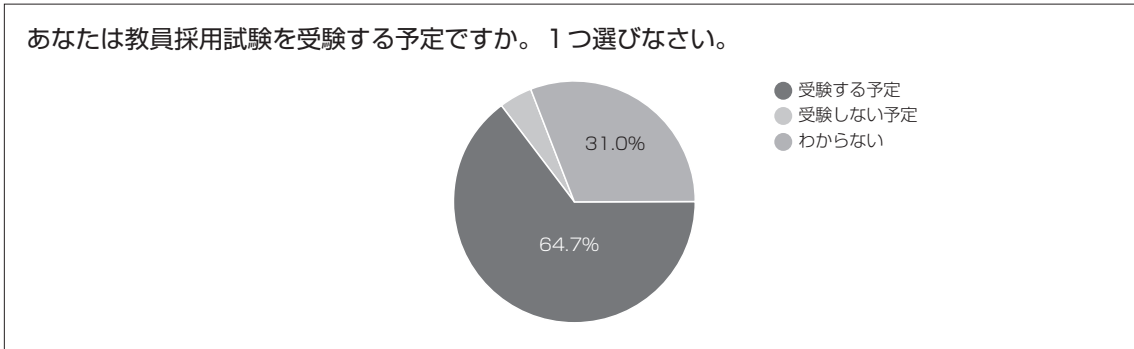


図9 【事前アンケート】4

図10 【事後アンケート】4 (略)

3.5 教職資格取得に向けての取組

最後に、図11「教職資格取得に向けての取組」については、まだ1年次でもあり、その意識が具体的な行動化にはあまり結び付いていない。ほとんどの項目に数字的な変化はないが、むしろ試験案内の確認や授業への積極的な受講という点では、低下している。これは、コロナ禍によるオンライン授業の課題対応など、教職課程履修により、春学期以上に負担が増加したことによるものと推察される。しかし、授業課題へのコメントで、再三呼びかけた新聞閲読や図書館の活用については微増している。また、恩師やコーチから直接お話しを伺うなどの積極的な行動も見られた。

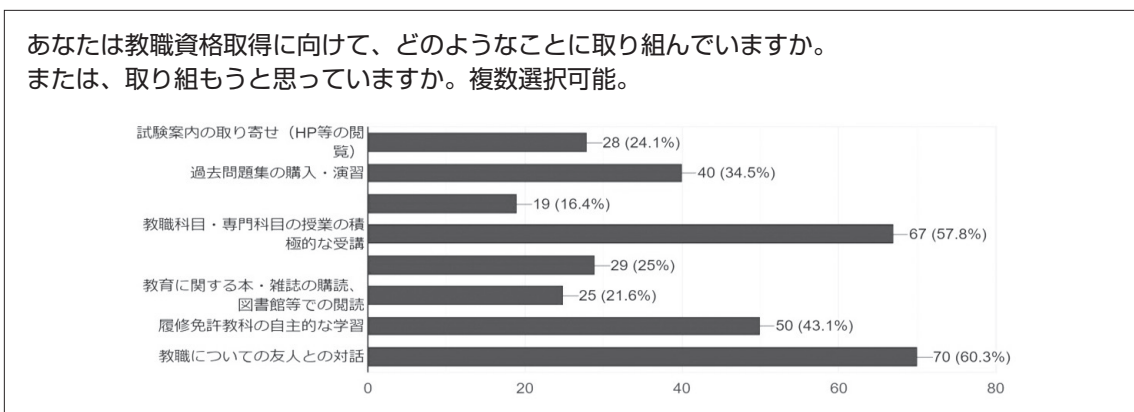


図11 【事前アンケート】5

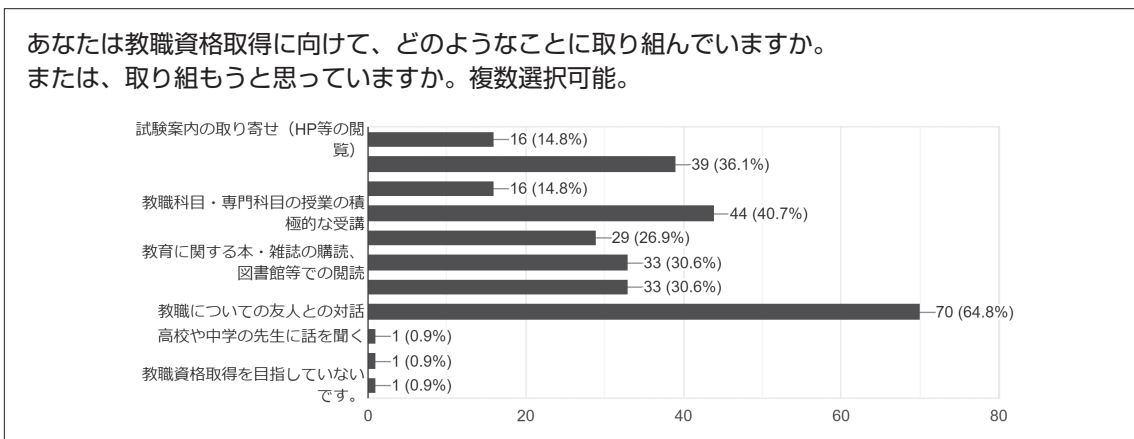


図12 【事後アンケート】5

3.6 「教師像」の変化～課題レポートから

さらに、「課題レポート」からの、授業を受ける前後の「教師像」の変化を確認したい。レポートの課題は、2つ以上の単元からの学びを基に、その変化を説明するというものであった。履修者が取り上げた単元を集約したものが下の表6である。1番多く取り上げられたのは「生徒指導」であった。これは、履修者が指導を受ける「生徒の視点」から指導を為す「指導者の視点」へと転換し、自覚したからこそ取り上げていることが確認できる。一人の履修者はこのことについて、次のように述べている。

表6 「教師像」の変化

回	テーマ	内容	1	2	計
1	ガイダンス、事前アンケート記入及び導入授業	授業の進め方、学校教育の現状と課題、教職の意義と教師の役割について。	2	1	3
2	法規の読み方／授業をする	法令とは何か、法令解釈の3つの原則、判例と行政実例について。授業を法律の視点から見る。	6	1	7
3	教科書を使う／補助教材を使う	教科書とは何か、教科書検定制度、教科書の使用義務について。補助教材とは何か、補助教材の範囲について。	2	0	2
4	成績をつける／指導要録への記入と管理	教育評価とは何か、法律に基づく評価の規定、評価権について。指導要録に関する判例。	7	1	8
5	子どもを叱る／子どもへの体罰の禁止	懲戒とは何か、懲戒の法的根拠、懲戒の種類について。体罰の範囲、教師の責任について。	19	14	33
6	髪形・服装を規制する／いじめが起きた	校則とは何か、校則の法的性格について、髪形規制に関する判例。いじめとは何か、いじめ問題への対応の仕方について。	13	9	22
7	学校事故への対応／学級を担任する	学校事故で問われる教師の責任、予見義務と注意義務について。校務分掌、校長の責任の範囲と義務について。	5	11	16
8	職員会議に出席する／勤務時間を決める	職員会議の法制化について、東京都の例。公立学校の教師の勤務時間、校長による勤務時間の割り振りについて。	1	2	3
9	学校を休む／出張に出かける	休暇の種類及び育児・介護休業法について。出張命令について。	1	2	3
10	教師の服務／信用を落とさない	服務に関する8つの義務とは何か、懲戒処分について信用失墜行為とはどのように判断されるのか。	14	16	30
11	守秘義務／職務命令に従う	守秘義務違反とは何か、守秘義務違反の判例。上司の命令に従う義務について。	8	8	16
12	職務専念の義務／教員の兼業・兼職	職務専念の義務が免除される場合とは何か。教師の兼業はどのような場合に認められるのか。	8	5	13
13	教員の研修	研修の意義と内容、研修の進め方について。	3	10	13
14	組合活動・職員団体／教育時事	職員団体とは何か、交渉事項について、職務との関わりについて。教育に係る時事問題。	1	0	1
15	授業のまとめ／教職の魅力	今後の教職課程での学び、教職の課題と展望について。先人から学ぶ。	0	10	10

「教師は生徒に、学力や知識だけでなく、自律心や道徳性などの人間力を育成することが、大切だと私は考えている。そのため、授業を受ける前は、『指導力のある教師』が私の理想とする教師像であった。しかし、授業を受けて、『生徒の視点に立つことができ、信頼関係を築ける教師』というものへと変化した。(中略)『教育概論』第5回『子どもを叱る／子どもへの体罰の禁止』で実際にあったいくつかの事例のように、行き過ぎた指導であっては意味が無い。この講義を通して、体罰によって、生徒の命を奪ってしまうこともあるという事を学び、生徒の視点に立

つことが出来れば、このようなことは起こらなかったのではないかと考えた。また、同時に、その場その時の感情や理性に流されるのではなく、生徒の視点に立って、どのような指導が、生徒にとってベストなのかを考えられる教師であるべきだと感じた。」この履修者は、生徒の視点を踏まえた指導者の視点を獲得している。今後の専門科目の履修において、さらなる発展が期待される場所である。

また、ほぼ同数で2番目に多く取り上げられたのが「教師の服務」である。上記の履修者は、さらに続けて次のように述べている。「教師が生徒を指導していくには、信頼関係が欠かせないものだと思う。信頼関係が無ければ、生徒に想いは届かず、指導が一方的で無駄なものとなる。信頼されるためには、生徒全員を一人の人間として尊重することが重要である。不公平な扱いをしたり、生徒の気持ちを考えられなかったりする教師を、生徒は信頼しないだろう。なにより、『教育概論』第10回『教師の服務／信用を落とさない』で学んだ、信用失墜行為の具体例のように、わいせつ行為を行うことなどあってはならない。この講義で、実際にあった信用失墜行為をいくつか学び、常に生徒の模範であることを意識し、行動していく大切さを深く理解した。」このように指導者としての視点からさらに教職に求められる高い倫理観についても理解が進んでいる。

さらに、3番目に多く取り上げられたのが、1番目の生徒指導と関連する「校則・いじめ防止」である。別の履修者は、次のように述べている。「授業を受けた後は、教師という立場が生徒の人格形成に大きく影響し、指導するための言葉の表現力や統率力、コミュニケーションスキルを身につける必要があると明確に把握した。(中略)なぜなら『教職概論』第6回『髪型・服装を規制する／いじめが起きた』を通して学校の安全保持義務やいじめ防止対策推進法があることを学び、一般的な指導や加害や被害の恐れがある児童・生徒への注意を払う事がいじめ防止のため、教師にとって必要な力であると理解したからだ。私にはこの力があまり備わっておらず、高校サッカー部でチームメイトに指示をするとき言葉の表現力で悩んだ経験がある。だからこそ今後の教職課程での履修を踏まえ、日常生活の中でこの力を付けるべく努力を続けていく。」指導者としての視点の獲得が、履修者自身の強み・弱みの把握につながり、目指す教師像に向けての学びが深められている。

他の履修者についても、ほぼ共通して、次のように述べられている。「教師の視点で授業を受けた後は、仕事内容や法律に基づいた指導など、様々な実態を知り、以前より具体的なものになった。これからは、教職課程を通して教師に求められる資質、能力を身につけていきたい。」このように指導者としての視点の獲得、教職の概要の把握が、さらなる教職課程の学びへの動機づけともなっているものと考えられる。

4. Google Classroomの活用～コメント欄による声掛け

本講座については、全15回の講義に際し、第1回・第15回の事前・事後アンケート課題以外は、毎回、教員採用試験の過去問題（選択式）に基づく課題に取り組んだ。課題は、講義内容に関連するため、履修者には講義内容を詳細に確認しながら取り組ませるように促した。さらに、課題返却に際しては、毎回、一定のフォーマットを作成し、解説に加え、添削事務（コメント）の省力化を図った。ただし、各履修者の経過を確認しながら、満点が連続していれば、「今回も完璧でしたね。」と褒め、ミスが続けば、「間違えた所を『解説』により、しっかり確認しましょう。」と個別指導を意識し、励ますように心がけた。

以下、履修者とのGoogle Classroomコメント欄を通じてのやり取りの一例を示し、『目指す教師像』及び『教職観』の変容を促す働きかけについても確認しておきたい。

* 「第6回「髪型・服装を規制する／いじめが起きた」での課題返却コメント

- ・担当：「〇〇さん、早速の解答、お疲れ様でした。間違えたところをよく再確認しておいてください。生徒指導の基本として、まずは言葉の定義からしっかり押さえてしまいましょう。原点を定め、後は『子供のためになるか』を基準に行動していくことです。いじめについても、徒に恐れる必要はありません。同様に法的な言葉の定義をしっかり押さえてしまいましょう。後は、人間の『観察力』を高めることです。これには人と関わることが大切です。コロナ禍ではありますが、サークル活動やボランティア活動等にも積極的に取り組んでほしいと思います。頑張ってください。」(259字)
- ・〇〇：「いつもご指導いただき、ありがとうございます。ご確認していただきありがとうございます。サークルに入っているので積極的に参加していきたいと思います。」
- ・担当：「〇〇さん、丁寧に確認ありがとうございます。〇〇さんは、どんなサークル活動をやっているのですか。中高教員には部活動顧問という仕事もありますから、教科以外の『一芸』を持っていると強みになります。(保健体育の先生は基本その専門科目ですが。)また、大学1、2年次は履修科目数も多くなかなか時間をとりづらい所だと思います。教職を目指す皆さんは、1、2年次にしっかり単位数を稼ぎ、3年次以降、丸々1日とか半日とか空き時間を作り、ボランティア活動に取り組めるようにしましょう。川越市教育委員会や市内小学校からも募集がありますから、その時に向け、備えることも大事ですね。」
- ・〇〇：「サークルは軟式野球サークルに入っています。分かりました。1、2年生で出来るだけ単位数を取れるように頑張りたいと思います。」
- ・担当：「〇〇さん、軟式野球であれば、中学校希望ですか。また、高校でも何校かありますね。さらに、野球経験者は、ソフトボール部の指導も期待されることがありますね。集団スポーツは様々な学びがありますから、こちらも4年間やり通すように頑張ってください。サークルの仲間は生涯の友人ですよ。」
- ・〇〇：「中学校希望です。サークルでの仲間を大切にしていきます。そして、その仲間と一緒に夢に向かって頑張っていきたいと思います。」

履修者の返答にはまだ「おうむ返し」のところもあるが、個別指導・助言による学修意欲の涵養・学修行動の具体化につながっているものと考え。

なお、Google Classroomは一般的には、各学期の講座の閉講と共に閉じられるものである。しかし、次年度以降もコロナ禍の継続により、教職課程履修者との対面による説明会等の実施が困難であるため、このGoogle Classroomを継続することとした。これにより新学期の教職課程履修者の履修登録から相談受付、介護等体験実習の希望調査・ボランティア活動の案内の配信等、教職課程履修者との双方向の対話が継続されている。

5. 今後の課題とまとめ

今後の課題は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、オンライン授業の改善・充実である。本県でも、新型コロナウイルス感染症の再拡大（第五波）により、2021（令和3）年4月23日から9月30日まで、緊急事態宣言が発出されるなど、厳しい状況が続いている。

この様な中で、本学の令和3年度の授業形態運営方針としても、いわゆる講義系の科目と必修科目は「オンデマンド授業」の形態での授業運営を求めている。特に、「教職概論」のように、100人近い履修者がいる場合、個別の指導は困難である。

しかし、本研究の成果を踏まえながら、オンライン授業（オンデマンド型）が続く中でも、学びの質を保障し、個別の指導、一人一人の学びに寄り添った指導を大切にしていく所存である。このために、2021（令和3）年度春・秋学期「教職概論」については、正規の授業時間内に、オンライン質問窓口を開設し、授業内容のみに留まらず、教職課程の履修に係る相談等も受け付けている。本学部は、2年後に完成年度を迎える。その最初の教職課程履修者の卒業・就職（教員採用試験）に向け、引き続き、系統的・発展的な養成段階の学びを保障すべく、指導及び研究に取り組む所存である。

【引用・参考文献】

- 中西 仁（2015）「教職概論」における教職課程入門の試み—学校・教職の現状を語ることを通して—, 同志社大学教職課程年報（4）, 44.
- 酒井 朗, 上山 敏, 永田 晴子, 長谷川 秀一, 米山 泰夫, 伊藤 茂樹, 保坂 亨（2013）「教職課程履修者の教職に対する意識と学習への取り組みに関する研究」, 人間生活文化研究（23）, 248-256.
- 小湊 真衣（2014）教職課程履修学生の科目選択動機とニーズに関する一考察 法政大学教職課程年報（12）, 103-112.

